

## 総括質疑順序表

No.	会 派 名	議員氏名	質 疑 日	質疑種別	質疑時間 (分)
1	ちがさき自民クラブ	小島 勝己	3月3日	代表質疑	180
2	絆・新しい風	青木 浩	3月3日	代表質疑	150
3	公明ちがさき	滝口 友美	3月6日	代表質疑	120
4	新政ちがさき	岸 正明	3月6日	代表質疑	90
5	未来創生・湘風クラブ	梶木 太郎	3月6日	代表質疑	90
6	ちがさき立憲クラブ	小磯 妙子	3月7日	代表質疑	60
7	日本共産党 茅ヶ崎市議会議員団	金田 俊信	3月7日	代表質疑	60
8	会派に属さない議員	杉本 啓子	3月7日	個人質疑	30
9	会派に属さない議員	豊嶋 太一	3月7日	個人質疑	30

# 令和5年第1回定例会 総括質疑通告一覧表

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<b>1</b> ちがさき自民クラブ 小島 勝己 3月3日/180分	1 予算編成について	(1) 3年ぶりに実施計画に連動した予算となった。今までの守りから攻めの姿勢に舵を切ることで、停滞していた市民活動や地域経済活動が活気を取り戻し、未来を担う子どもたちが夢や目標に向かって躍動する姿は茅ヶ崎市にとって大きな一歩である。着実に実施して、地域の飛躍につながることを大いに期待しているところであるが、その裏づけとなるのは財政の状況である。財政見直しに関する次の取組について問う。 ・実施計画と連動した予算執行後の期末の財政見直しについて ・行財政経営改善戦略による定員の適正化、業務の効率化等効果額の予算への織り込み額について ・今後の財政健全化の戦略と目標について ・今回の予算編成について、経済循環と福祉政策のどちらを優先して取り組むのかについて	
	2 子育て支援について	(1) 急速に進む少子化・人口減少。令和4年の国内出生数は初めて80万人を割り込む見通しであり、このままでは社会の活力が失われる。歯止めをかけるには子育て支援策の強化が不可欠である。自治体による子育て支援策が各地で進みつつある中、茅ヶ崎市の支援策に関する次の取組について問う。 ・小児医療費無料化に当たっての課題について ・不登校、いじめ、子どもの発達障害、ヤングケアラー等への課題の対応について ・部活動の地域移行について ・中学校給食の進捗について	
	3 地域経済の活性化について	(1) 地域経済の活性化を支える大部分は消費需要である。インフラ整備や公共施設等の整備の取組は消費需要となっており、茅ヶ崎市の機能維持と活性化につながり、将来にわたる「市民の暮らしの質」の向上に寄与する。その中で、地産地消の推進に関わる「道の駅」の開設が、地域経済の活性化につながることを期待しているところであるが、次の取組について問う。 ・スタートアップの支援について ・インフラの老朽化や公共施設整備に対する投資による茅ヶ崎市への経済効果の見込みについて ・道の駅開設の進捗状況と課題について	
	4 高齢者への支援について	(1) コロナ禍で外出などの自粛要請を受けて自宅で過ごすうち、知らず知らずの間に体力や意欲の衰えを招いている可能性がある。人と会えないといったストレスは心身機能の低下につながることから、心身機能の衰えを防ぐ上では、社会との接点を持つことが重要である。コロナ禍で独りになりがちな高齢者をこれからどう支えていくか、次の取組について問う。 ・フレイル予防や介護予防の対応について ・がん検診について ・認知症対応について ・成年後見支援センターの開設について ・介護人材確保について	
	5 障がい者への支援について	(1) 生活上の困難を抱える障がい者が地域において自立した生活を送ることができるよう、地域住民による支え合いと公的支援が連動する包括的支援体制の構築が必要である。障がい者に対する就業支援、雇用率向上対策、生活支援等に関する次の取組について問う。 ・障がい者への就業支援と法定雇用率改定に伴う対応について ・障がい者生活支援について ・インクルーシブ遊具の導入について	
	6 新興感染症への対応について	(1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に際しては、保健所を中心にした関連部署との連携による適切な対応により、市民に安心感を与え、保健所の存在は強く認識されたと思う。これまでは、緊急度の高い業務の遂行に当たり、保健所の劣悪な職場環境での対応を余儀なくされていたが、今後の新興感染症へは職場環境を整えた上で、市民の安全、安心のため事業に取り組むことが必要であるため、次の取組について問う。 ・保健所庁舎整備と職場環境の確保について ・保健所の人材確保と育成について	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">1</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">ちがさき自民クラブ 小島 勝己 3月3日/180分</p>	7 市民や地域活動の振興について	(1) 市民による主体的なまちづくりを、ハード・ソフトの両面から支援すると施政方針で述べられているが、次の取組に関する具体的な対応について問う。 ・「公民連携デスク」の設置による社会課題解決の取組について	
	8 文化・スポーツの振興について	(1) コロナ禍で、市民の文化・スポーツ活動による交流が停滞したが、環境整備を図りつつ振興を促進していく必要があると施政方針で述べられているが、次の取組に関する具体策について問う。 ・アウトリーチ型事業の具体策について ・文化資源を生かした文化都市に向けた取組について	
	9 災害に備えた対策について	(1) 東京、神奈川を中心に10万5千人余りが犠牲になった関東大震災から今年で100年目を迎える。節目の年を、防災や減災により一層取り組むきっかけとして、家庭や学校、職場でそれぞれが、喫緊の課題として平時から備えることが必要である。家具の固定や食料の備蓄、避難経路の確認などできる対策をしておくことが、100年越しの防災減災の基礎であると考えているが、災害に関わる次の取組について問う。 ・個別避難計画の作成の進捗について ・福祉避難所指定とマイナンバーカードを活用した避難アプリ普及の取組について ・内水氾濫に対する公共下水道の整備について	
	10 市立病院の公営企業法全部適用後の体制について	(1) 市立病院は、令和5年4月1日より地方公営企業法の規定の全部を適用する新しい経営形態でスタートする。経営形態の変更に伴う、新しい体制でのビジョン、運営等に関する次の取組について問う。 ・全部適用移行後の経営理念について ・新しい経営責任者による組織・人事・予算等の経営体制について ・医療機能に見合った体制の構築について	
	11 デジタル・トランスフォーメーションについて	(1) 「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」をミッションにデジタル庁は取り組んでいる。「デジタル化を進めるためには、デジタル化で、生活が便利になったと市民に実感してもらうことが重要」と言われているが、次の取組について問う。 ・デジタル人材の確保と育成について ・窓口手書き不要の「書かない窓口」の推進について ・デジタル推進委員の設置拡大について ・リスクリングによるスキルアップについて	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<div style="text-align: center;"> <h1>2</h1> <p>               絆・新しい風                青木 浩                3月3日/150分             </p> </div>	1 施政方針から、市長の基本的な考えを伺う	<p>(1) 令和4年10月に行われた市長選において、市民より市政運営について様々な評価が聞かれた。一期目の4年間は新型コロナウイルス感染症との闘いだった。その4年間の総括的な自身の評価を伺う。</p> <p>(2) 令和5年度は「茅ヶ崎市実施計画2025」もスタートし、プレーキからアクセルへと市政運営を変える大事なスタートの年度になり、思い通りにいかなかった最初の4年間の分まで、市民の期待値は高いと考える。「守りから攻めへ」とあるが、大きく舵を切ることに至った市長の決意を伺う。</p> <p>(3) 一期目の4年間は「財政健全化」にも取り組んできた。市民に我慢や御負担もいただいた。それらを踏まえ、この取組の評価を伺う。</p> <p>(4) 令和5年度は過去最大の予算編成となった。「進取果敢」に取り組むとされているが、この言葉は市長自らが物事に取り組み、決断力が強く大胆なことを意味する。まさしく市長のリーダーシップが強く求められるが、市長の不退転の覚悟を伺う。</p>	
	2 2023年度における重点施策の概要について	<p>(1) 「茅ヶ崎市実施計画2025」における3つの重点戦略はコロナ禍の影響や市民の市政への考え方を踏まえて事業を定めたが、市民の声をどのように捉え、なぜ3つの重点戦略としたのか考えを伺う。</p> <p>(2) 地域の魅力発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茅ヶ崎が持つ風土や文化、それを生かした市長の施策などが評価され、子育て世代の流入が増加し話題となった。人を惹き付ける魅力の発信には、茅ヶ崎が持つポテンシャルを最大限に活用する必要があるが、その取組について伺う。</li> <li>茅ヶ崎が有する約6キロメートルにわたる海岸線は魅力的な場所であり、最大限アピールすべきと考える。しかしながら、令和5年度の主要な事業として位置づけされていない。ハード・ソフト面からも力を注ぐべきではないのか。考えを伺う。</li> <li>ホノルル市・郡との姉妹都市交流について、次世代交流や経済交流とあるが、その取組の詳細を伺うとともに、その先にある市の目標をどのように据えているのか伺う。</li> </ul> <p>(3) 子育て支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年4月に国はこども家庭庁を立ち上げ、岸田首相の「異次元の少子化対策」という発言もあり、本格的に動き出す。茅ヶ崎市も4年前の市長就任直後から小児医療費の中学校3年生までの無償化を皮切りに、令和5年度は所得制限や通院時の一部負担金の撤廃など、新たな施策を打ち出していることは大いに評価する。国の動向にも注視し、本市としてさらに支援を進めるべきと考えるが、本市の進める先をどのように考えていくのか伺う。</li> <li>中学校給食はコロナ禍の影響により、市長の唯一の積み残しとなっている事業でもある。市長公約でもあり、市民、特に子育て家庭においては多くの期待が寄せられているが、今後の見通しを伺う。また、事業としても規模が大型であることから、一斉にスタートを切るのではなく、段階的に準備が整い次第始めるなど、柔軟な対応も必要と考えるがその取組方針を伺う。</li> <li>「こどもまんなか社会」の実現に向けては、子どもを主体とした子ども支援と、育ちを支える活動が必要であり、茅ヶ崎市の市長部局、教育委員会双方が学校だけではない大きな視点で取り組む必要があると考えるが、具体的な取組方針について伺う。</li> </ul> <p>(4) 地域経済の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域経済の発展なしにまちの活性化はないと考える。コロナ禍は、飲食店や関連企業をはじめ多くの事業者に大きな打撃を与えた。それらの事業者の再興なくして新型コロナの克服はないと考える。市長はコロナ禍においてキッチンカーの出店などに率先して取り組んできた。次にいつ起きるか分からない感染症拡大への対策も含めて、コロナ禍から回復するための市内の事業者支援の考えを伺う。</li> <li>令和7年7月のオープンに向けて道の駅整備事業が進んでいるが、全国にある道の駅は経営を維持していくために、一部には地場産ではない商品を販売しているところもある。茅ヶ崎市の道の駅である以上、地場産は地産地消推進のため必須と考える一方、経営維持と地産地消推進は難しい選択だと思いが、市の考えを伺う。</li> <li>ローカルツーリズムにつなげることで観光による地域経済の活性化を図るとしているが、具体的な取組を伺う。</li> </ul> <p>(5) 高齢者への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢化」が進むことで大きな問題となるのが人口構成の変化に伴う経済成長の変化と社会保障制度の負担増などへの影響といわれている。茅ヶ崎市も同様の課題が想定されるが、2025年問題、2040年問題等を見据え、今からできることは取り組んでいく必要があると考える。市の考えを伺う。</li> </ul> <p>(6) 障がい者への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所内で障がい者の特性を生かした業務の創出と雇用促進を図るとされているが、市内企業における雇用促進についてどのように取り組むのか伺う。</li> </ul> <p>(7) 新興感染症への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市長のリーダーシップのもと、保健所の対応はもちろん、状況に応じた職員配置やワクチン接種においてはどこよりも早く市民に提供体制を整えた功績は高く評価する。国では段階的に5類への移行やマスク着用について見直すこととされているが、現段階においてはまだまだゴールが見えない現状である。保健所整備について、移転場所が示されたが、コロナ禍の経験を踏まえ決断したのか、なぜこの時期に整備することとしたのか伺う。また、整備するに当たり、コロナ禍で学んだ多くの経験を踏まえて、より機能的な施設とすべきと考えるが考えを伺う。</li> <li>DXの取組について、タブレットの整備により事務の効率化が進むと考える。しかし、一方で莫大な費用もかかることが想定される。取組の推進と費用とのバランス、費用対効果をどのように求めるのか伺う。また、「書かない窓口」の取組は、大いに期待するところであり、どのようなスケジュールを検討しているのか伺う。</li> </ul>	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<p style="text-align: center;"> <b>2</b>  <b>絆・新しい風</b>  <b>青木 浩</b>  <b>3月3日/150分</b> </p>	<p>2 2023年度における重点施策の概要について</p>	<p>(8) 市民や地域の活動の振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松林地区への地域集会施設の整備が進められる。他の地域からの要望もあったと思うが、なぜ松林地区なのか。他の地区については今後どのように考えるのか伺う。</li> <li>・「(仮称) 公民連携推進デスク」について、どのようにして社会課題の解決につなげるのか伺う。</li> </ul> <p>(9) 文化・スポーツの振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが文化芸術に触れる機会として、アウトリーチ型事業が挙げられているが、鑑賞だけにとどまらない、事前の学習、体験型の活用などで文化芸術に触れることから、参加、実践などを子どもたちが選べるようにすることが望ましいが、考えを伺う。</li> </ul> <p>(10) 災害に備えた強靱化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都直下地震や南海トラフ巨大地震といった大地震の発生が懸念され、茅ヶ崎市にも多大な被害が想定される中、これまでの全国で発生した様々な自然災害やその被災からの復興を踏まえ、本市で想定される被災状況の想定と、被災した場合に一刻も早い復興を成し遂げるための事前復興計画の構築が必要であると考ええる。その復興事前準備の取組について伺う。</li> <li>・カーボンニュートラルの取組について、令和3年4月に寒川町と「気候非常事態宣言」を共同表明し、脱炭素社会の実現に向けた取組を推進することとしている。こうした取組を推進するためには、環境分野のみならず、企画をはじめ、経済、産業、都市、健康など、多岐の分野にわたるため、庁内連携は必要不可欠であると考ええる。こうした実情を踏まえ、令和5年度の取組について伺う。</li> </ul> <p>(11) これからの市政運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「強さとやさしさを備えた活気あるまち」。その実現には職員の力が必要であり、市長の「攻め」の姿勢には共感できるが、それを具現化するのも職員である。職員の力を結集し、その目標に向かって人財育成をしていくのか考えを伺う。</li> </ul>	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<b>3</b> 公明ちがさき 滝口 友美 3月6日/120分	1 令和5年度予算について	(1) 令和5年度予算は、798億5,000万円と過去最大規模となっている。「守り」から「攻め」へ大きく舵を切ったことによる政策的な戦略と市民ニーズに基づく事業とのバランスについて問う。	
	2 茅ヶ崎市の魅力発信について	(1) シティプロモーションの手法について問う。 (2) 自治体Vチューバー導入について問う。	
	3 子育て支援について	(1) 出産から大学まで切れ目のない支援を問う。 (2) 医療費助成制度の高校卒業までの拡充を問う。 (3) 特別支援教室の整備の前倒しについて問う。	
	4 地域経済の活性化について	(1) 地域経済の発展をけん引する経済主体としてみた道の駅の展開について問う。	
	5 高齢者への支援について	(1) 「デジタル推進委員」の配置拡大を問う。 (2) 認知症の当事者、ご家族と認知症サポーターなどの支援者をつなぐ仕組みの推進について問う。 (3) 「健康ポイント」、「ボランティアポイント」などの普及促進について問う。 (4) 带状疱疹ワクチン助成について問う。	
	6 障がい者への支援について	(1) 市内企業の法定雇用率アップと就労継続について問う。 (2) 基幹相談支援センターの機能について問う。 (3) 「障がい者支援アプリ」の機能拡大を問う。	
	7 デジタル化推進について	(1) 「書かない窓口」の具体的方法について問う。 (2) 本市におけるデジタル人材の確保について問う。	
	8 公民連携について	(1) 「(仮称)公民連携推進デスク」の機能を問う。 (2) 市民ニーズとの乖離をどのように防ぐかを問う。	
	9 環境政策について	(1) 本市における脱炭素化を進めて経済成長につなげるGX(グリーントランスフォーメーション)実現に向けた取組について問う。 (2) 「ブルーカーボン」によるCO2削減の取組について問う。	
	10 市内企業の活性化について	(1) 市内企業や農業者を原油価格や食料品価格などの高騰から守る本市の取組を問う。	
	11 文化・スポーツの推進について	(1) 「年齢、障がいの有無又は経済的な状況」にかかわらず、等しく文化芸術の鑑賞ができる環境整備について問う。 (2) 中学校部活動の地域移行について問う。 (3) パラスポーツ選手の招へいによる市民のパラスポーツ拡大について問う。	
	12 防災について	(1) クラスタ被害を面として防ぐ感震ブレイカーの推進拡大について問う。 (2) 聴覚障がい者など障がいを持つ方も参加する災害図上訓練の開催について問う。 (3) 高度化された予報をしっかりと活用できる人材の養成について問う。	
	13 保健所庁舎整備事業について	(1) 保健所・保健センターの整備による保健機能拡大について問う。 (2) 専門性を生かした保健師の新興感染症発生時や災害時における活動と、組織横断的な保健活動の連携について問う。	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<b>4</b> 新政ちがさき 岸 正明 3月6日/90分	1 保育園、児童クラブの待機児童について	(1) 令和5年度の待機児童数の見通しとその対策について問う。	
	2 児童、生徒の不登校について	(1) 児童、生徒の不登校数が増加しているが、不登校対策について問う。	
	3 子どもの貧困について	(1) 子どもの貧困の調査について、コロナ禍もあり、状況が変化していると思われる。再調査の見込み及びその対策について問う。	
	4 学校給食について	(1) 中学校の完全給食について試行などを行っているが、見通しについて問う。 (2) 無農薬、有機農法など子どもの健康や食育に必要と考えるオーガニック給食についての考え方を問う。	
	5 小・中学校教職員の確保について	(1) 教職員不足への対応について問う。 (2) 学校給食費などの公会計化への取組について問う。	
	6 保健所庁舎整備について	(1) 本庁舎整備を踏まえたセキュリティ対策について問う。 (2) バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮について問う。	
	7 市の執行体制について	(1) 「茅ヶ崎市実施計画2025」における各課の職員配置基準の考え方を問う。 (2) 長時間勤務の是正やワークライフバランスの充実など、人材確保に向けた考え方を問う。	
	8 勤労者支援について	(1) コロナ禍からの回復期を念頭に、施政方針で掲げる地域経済の活性化をどのように勤労者支援につなげていくのか問う。	
	9 感染症対策について	(1) 国の政策転換により受診・接種控えが起きると想定される。市独自の助成策が必要と思われるが、準備等について問う。	
<b>5</b> 未来創生・ 湘風クラブ 榎木 太郎 3月6日/90分	1 施政方針の基本的な考え方について	(1) 新型コロナウイルス感染症のステージ変化と新たに取り組むまちづくり及び予算編成について問う。	
	2 持続可能な茅ヶ崎市について	(1) 地域の魅力発信について問う。 (2) 魅力を感じる施策の展開について問う。 (3) 定住促進等について問う。 (4) 姉妹都市及びゆかりのまちとの交流の再構築とシティセールスへの展開について問う。	
	3 子育て支援について	(1) 国策の推進と茅ヶ崎市の特色ある取組について問う。 (2) 魅力ある中学校給食への取組について問う。 (3) 特別支援学級の拡充について問う。 (4) 体育館へのエアコン設置と地域開放等について問う。 (5) 学力と人間力の向上への取組について問う。 (6) 教員の資質向上と働き方の改善について問う。	
	4 地域経済の支援について	(1) 市内企業の育成と支援について問う。 (2) 観光施策の展開について問う。 (3) 道の駅の取組について問う。	
	5 文化スポーツの振興について	(1) 各種スポーツ団体等への支援について問う。 (2) 文化活動の拠点の確保について問う。 (3) 茅ヶ崎市のアイデンティティと歴史の継承について問う。	
	6 合理化と組織改正について	(1) 組織改正のポイントと検証について問う。 (2) 人にやさしいDXの推進について問う。	

質疑順序 会派名 代表(個人)質疑者氏名 発言日/質疑時間	質疑項目	質疑の要旨	関連 質疑者
<b>6</b> ちがさき立憲クラブ 小磯 妙子 3月7日/60分	1 市民の意見を市政運営に反映する仕組みについて	(1) 子育て世帯や高齢者・障がい者の困り事をしっかり捉え対応できるまちづくりの具体策として、市民の意見を聞く場の設定について方針を伺う。	
	2 職員の業務遂行における市民との信頼関係について	(1) 補助金・交付金支出や契約等における職員の業務遂行に当たって、2件の裁判提訴の経験を、市民や市民団体との信頼関係において、どう生かしていくか、見解と具体策を伺う。	
<b>7</b> 日本共産党 茅ヶ崎市議会議員団 金田 俊信 3月7日/60分	1 小児医療費助成制度について	(1) 子育て支援において、所得制限と一部負担金の撤廃により、どのような効果が期待されるのかを問う。 (2) 神奈川県が、就学前から小学校卒業まで対象を拡大したことについて、見解を問う。 (3) 全ての子どもを対象とするために高校卒業まで拡大することについて問う。	
	2 学校給食について	(1) 小学校給食について、食材費を含めて無償とすることについて問う。 (2) 中学校給食について、選択制デリバリー方式に対して市民から寄せられた意見や要望について問う。 (3) 中学校給食について、モデル事業のアンケート結果を踏まえた上で、喫食率をどのように想定しているかを問う。 (4) 中学校給食を全員喫食型とすることについて、費用対効果を含めて問う。	
	3 (仮称) 公民連携デスクの設置について	(1) 設置目的と期待される効果を問う。 (2) 従来は本市が企画した公共事業に対して民間事業者を募集していたが、公民連携デスク設置後は民間事業者が企画した事業案を本市が公共事業として採用するケースが生じ得るのかについて問う。	
	4 待機児童解消対策について	(1) 保育所等の待機児童数・保留児童数の見通しと要因について問う。 (2) 保育所等の待機児童数・保留児童数解消対策について、子育て世代転入促進施策との庁内連携及び整合性を問う。 (3) 児童クラブの待機児童数・保留児童数の見通しと要因について問う。 (4) 児童クラブの待機児童数・保留児童数解消対策について、子育て世代転入促進施策との庁内連携及び整合性を問う。	
	5 高齢者世帯へのサポートについて	(1) いわゆる敬老パス等の公共交通運賃助成について、その意義と効果及び制度導入を問う。 (2) 低所得世帯への経済的支援として、市営住宅の有効性とその拡充の必要性を問う。 (3) 市営住宅は当選者と落選者間の経済的恩恵に関する格差が過大であることから、落選者に住居費を助成することについて問う。	
<b>8</b> 杉本 啓子 3月7日/30分	1 ごみの有料化と戸別収集の実施について	(1) ごみの有料化は、受益者負担の適正化から料金を徴収しているが、不適正排出等により、市が料金を回収できていない現状について問う。 (2) 市民への公平性のためにも、料金の適切な回収が必須であり、回収できないなら、対策として戸別収集の実施が必要と考える。市の対策方針を問う。	
	2 市民ギャラリーのアトリエ機能と展示室について	(1) 市民ギャラリーは、施政方針にある「市内に点在する文化資源の力を生かし、人が集まる文化都市としての価値向上」そのものに該当する価値を持つと考える。市の価値観を問う。 (2) 「アトリエ」にどのような機能が求められ、市が本質的に理解していないため、市の「アトリエ類似機能」の考え方も理解不足による案を市民に説明していること等についてを問う。	
<b>9</b> 豊嶋 太一 3月7日/30分	1 今後の障がい者福祉政策の取組について	(1) 特別支援学級の整備と今後の進め方について問う。 (2) どのような障がいがあっても住みやすい街づくりとその環境整備に向けた具体的な取組について、次の事項を問う。 ・公園へのインクルーシブ遊具の導入について ・心のバリアフリー推進について ・障がい者の雇用促進について ・基幹相談支援センターの設置について (3) 災害時における支援が必要な方々への具体的な取組について問う。	